



武家の古都・鎌倉を歩く

奈良教育大学 教授 岩本 廣美

首都圏の一角に位置する神奈川県鎌倉市中心部（以下、鎌倉）は、源頼朝が12世紀の終わりごろに幕府を置いたところです。鎌倉の文化財・遺跡群は、「武家の古都・鎌倉」として、ユネスコの世界文化遺産に登録されることが期待され、今、関係者が熱い視線を注いでいるところでもあります。

今回の地図歩きでは、『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』（以下、地図帳）p.70「日本の歴史」④のイラスト地図「鎌倉のようす」（下の地図）を見ながら鎌倉を歩き、歴史探訪をします。

丘陵に囲まれた土地

鎌倉は、周囲三方を丘陵に囲まれた平野部に、市街地が広がっている地域です。中央部を若宮大路が南北に貫き、その北端の丘陵に

かかる付近に鶴岡八幡宮が置かれました。南は相模湾に面し、鎌倉時代当時に港も設けられました。当時の中国（宋）との交易を意図したというこの港は、和賀江島^{わかえじま}として今も跡をとどめ、世界遺産登録の候補です。

源頼朝は、敵の攻撃から守りやすい天然の要害ともいべき地形的条件に注目し、鎌倉に幕府を置いたと考えられます。

イラスト地図「鎌倉のようす」でまず注目したいのは、「切通し」を表す八つの^三の記号です。切通しとは、鎌倉と他地域を結ぶ道が丘陵の一部を越すところで、わざわざ掘り下げた箇所です。狭い道の両側が急な崖で挟まれています。幕府は、それぞれの切通し付近に武家の有力者を住まわせ、鎌倉防御の拠点にしました。

鎌倉時代に設けられた切通しは、現在も名



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.70

残をとどめた箇所があります。中には、馬1頭がやっと通れるくらいの道幅のところも見られます。鎌倉の歴史を語るうえで重要な遺跡のため、^{かめがやつ}亀ヶ谷切通し（写真）をはじめとする5か所が世界遺産の登録候補になっています。



^{かめがやつ}亀ヶ谷切通し（2013年1月 筆者撮影）

鎌倉時代創建の寺社群

鎌倉を囲む丘陵周辺には、鎌倉時代に創建された寺社が多数あります。先の鶴岡八幡宮ほか二つの神社、寿福寺をはじめとする九つの寺院が世界遺産登録の候補にあげられています。

現在のJ R横須賀線「北鎌倉」駅周辺には、丘陵の谷間から山腹にかけて伽藍が広がる円覚寺や建長寺などがあります。うっそうとした木立に抱かれた中に建物群が見られます。これらの建物群は、武家が依拠した禅宗の影響を受けたためと思われるが、質実剛健という表現がふさわしい造りのものが多いのが特色となっています。

鎌倉の寺社群で欠かせないのが、鎌倉時代に鑄造されたと伝えられる、高さ約11.3mの阿弥陀如来像、すなわち鎌倉大仏（写真）です。奈良市の東大寺（地図帳p.70「京都・奈良付近」参照）の大仏ほどの高さはなく、また、現在は屋外に置かれている点も東大寺と

異なります。しかし、鎌倉大仏は、13世紀に鑄造された当時の姿が現存しているといわれており、貴重な文化財です。



鎌倉大仏（提供：鎌倉市観光協会）

観光地としての鎌倉

鎌倉は、東京駅からJ R横須賀線の電車に乗れば約1時間で到達できる、交通の便利なところ。前述の寺社群などが観光資源となり、首都圏を代表する観光地のひとつになっています。周囲の丘陵は格好のハイキングコースになっていて、切通しを歩く行楽客もしばしば見られます。これらの事情から、鎌倉は、首都圏の数多くの小中学生が遠足や社会科見学などで訪れる先としても、有力なところ。さらに、夏季の鎌倉は、稲村ヶ崎・由比ヶ浜・材木座海岸の砂浜が、近辺の江ノ島や逗子市の海岸などとともに海水浴場になり、大勢の人が訪れます（地図帳p.37①「東京都とそのまわり」参照）。

* * *

小学校6学年では、社会科の歴史単元で鎌倉について学習する機会があります。教科書で学習したことが、地図帳のイラスト地図「鎌倉のようす」をじっくり見ていくことによって、さらに深まることを期待しています。